

2024/5/19	
議 事 録	
ファッションビジネス科 教育編成委員会ミーティング	
日 時	2024年3月8日 16:00～16:40 ズーム・ミーティング
場 所	東京服飾専門学校(3FH1) 豊島区巣鴨1-19-7
企業出席者	株式会社アズノウアズ 執行役員 管理本部長 中村 潤様
	株式会社ステップス 常務取締役 塚田龍一様
	東京服飾専門学校 司会 副田勝久
	鷺 典子 造形科学科長
	石川 誠 ビジネス科学科長
欠 席 者	3名
概要	1.学科カリキュラムの編成と変更点、留意点について 2.産学連携、職業実践体験プログラム実施内容について 以上について業界の求める人材を学科として育てているか、意見を収集して改善を図る
内 容	①挨拶 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上への再確認 ・第11回 教育編成委員会の目的と議事項目詳細説明 ②職業実践講座授業の実施途中結果
	副田先生が進行 ・教育課程編成委員会の趣旨を説明。 ・学内位置付けと、教育内容向上へどう努力すべきか。 ・今回の教育編成委員会の目的と議事項目の紹介。 ・出席者紹介
	【副田】
	環境基盤強化を目的とした業界団体への加盟状況を説明
	・日本アパレル・ファッション産業協会
	・日本アパレル工業技術協会
	・日本モデルリスト協会
	・東京婦人子供服縫製工業協会
	【石川】
	産学連携実習 前期・後期実績について
	ビジネス科2年生対象
	・株式会社キャン様「売れるお店の条件＆新規出店提案」
	・株式会社ステップス様「ECデモページ作成」
	後期
	・アッカインターナショナル様「EC倉庫見学」
	・株式会社アバハウス様「ブランドPR展示会の開催」
	E-コマース市場拡大にともなりOMO必須の業界の流れ、及び、総合職以外の販路創出を
	目的とした授業課題を(株)アッカ様と実施。教員研修の一環で15名ほど事前に訪問。
	物流の今を学習することができた。
	(株)アバハウス様も学生との取り組みが今回が初めてであり、Z世代である学生達の新しい
	完成やアイデアが企業の生き残りとは強く認識しているため双方が本課題を求める機会として
	約4ヶ月にわたる授業課題として取り組んだ。
	【各参加者様 ご意見】 ビジネス科
	中村 様・塚田様 産学連携実習に関しては、様々な観点で取り組みされている点では評価できる。教育の場であるカリキュラムとしては質の高いものだと感じるが、実践(仕事)としてはよりインターンの位置付けを高くし、カリキュラムに取り入れるぐらいの頻度で行った方が良いのではないかと。職種実務レベルの知識・スキル習得をさらに押し上げる内容になるなと感じる。
	ビジネス科課題 チーム内での課題取り組みの難しさを顕著に感じた通年であった(産学連携実習等) 明確な出口(希望職種)を抱けている生徒、そうでない生徒の乖離が影響している。 【対応策】 次年度(令和6年)よりビジネス科でも選択科目を設定し、総合職、メディア・ECと分け、基本授業内容に将来をしっかりと見据えることのできる授業内容の差別化を強化している。多くの可能性、選択肢が生まれる業界故、一つでも多くの職種就労でも基礎力・実践力を身につけた状態でスタートが切れるように配慮した取り組みだと認識している。

研修活動	<ul style="list-style-type: none">・教員教職課程研修に出席(鷲・石川誠) 2023年6月～11月まで全25回。研修内容はレポートにより校内に共有。夏、本年1月の2回に亘り、総括とする校内での研修、プレゼンテーションを実施。継続的に出席者を変え、参加していき、多岐にわたる視点で学習レベルをあげていく予定。・海外研修旅行実施 2023年11月初旬(7日間) 渡航先:フランス パリ 23名の生徒が参加。4年ぶりの実施となったが研修先での貴重な経験やファッションの中心地パリで多くの刺激を受け、学習、製作意欲にも大いに影響する機会を創出することができた。
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・授業連携や選択科目履修等での応用力教授の機会をより増やし、就職時にはすでにスタートラインに立てるよう教育の質を今まで以上に上げることが引き続き大事となる・DXの取り組みに関しては随時、行っているが引き続き、Classroomの活用、ペーパーレスでの授業構成を適宜実施する必要がある。・教員による校外研修の重要性を認識した本年度だったため、生徒の多様性、生徒たちへの合理的配慮は教育ガイドラインにも明記された内容であるため、広い知見を習得し、ファッション業界での就労を目指す学生達へ安心して学習のできる環境作りが今まで以上に重要課題となる。
作成者 石川誠	

2.産学連携、職業実践体験プログラム実施内容に関して

以上について業界の求める人材を学ぶ

科として育むことができているか、意見交換を行い、改善を図る。